
月のない春の夜に

みゆ貴茂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月のない春の夜に

【Nコード】

N0669E

【作者名】

みゆ貴茂

【あらすじ】

私は私の桜を愛す。だから……。

「桜がきれいに咲くのは」

その話を聞いたのは私が小学生のときでした。

『今日、東京都杉並区にお住まいの、

××さんの長男・ちゃん六歳が行方不明になり

』

ボンッ

「ありがとう」

私はテレビの電源を切り、そう静かに呟いた。

私が通っていた小学校の校庭に大きな桜の木がある。

その桜は、ほかのどの木よりも先に花を咲かせ、散ってゆくのも最後だった。

その鮮やかに舞い散る花びらと辺りを支配する花香が、新しい学期をむかえ、いささか緊張する私の心を和ませてくれた。

あれは私が中三の春。

その桜の木が枯れそうになった。

焦った私は、小学校の頃、友達が無気なく言ったあの言葉を思い出す。

そして私は、月のない暖かい春の夜に、

猫を一匹、根本に埋めた。

闇の夜を支配するような黒い毛並みと、
金色の瞳をした美しい猫だった。

その数週間後、枯れそうになっていたのが嘘のように、
私の桜は満開に花を咲かせた。

それ以来、私の桜が枯れることはない。

私の桜は、ほかのどの木よりも先に花を咲かせ、
舞い散る花びらと噓せ返るような花香が、

私を壊していく。

「桜がきれいに咲くのは、根本に死体が埋まってるからだって」
その話を聞いたのは私が小学生のときでした。

月のない春の夜に、私は桜に　　。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0669e/>

月のない春の夜に

2010年10月10日08時00分発行